

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

「本気で市民の声を生かすしくみを求めて」
上越市・上野 るみ

- 4.5 トピックス 新年度の展望 事務局長・田原 理
- 2 視点 「地域で支える子育て支援」 新潟市・高橋千恵子
- 3 ひろば 「田上町の宝 護摩堂山」 田上町・吉澤 卓
- 6 実践記録シリーズ 「だんぼの部屋」 南魚沼市・木村 義隆
- 7 サークル交流 「ほそぼそとたくましく」(関川村) / 「皆で楽しいパソコン教室」(十日町市)
- 7 素顔拝見 中野 良彦さん(小千谷市) / 田村 靖宏さん(阿賀野市)
- 8 お元気ですか 五泉市・熊倉 文男さん
- 8 恵贈資料紹介



「柏崎市中央幼稚園 中央ちびっこ太鼓」(柏崎市)

表紙解説

市民プラザで開催した、マナビイステージ(市民芸能発表会)での、年長児の発表です。愛らしい子どもたちですが、力強い演奏が会場いっぱい響きました。

新年度の展望

事務局長 田原 理

各市町村では

平成24年度の事業計画を立てる時期になりました。県内市町村では、平成23年度の事業評価と課題についてまとめる時期で、それぞれ担当の方々は多忙のことと思います。同時に、来年度の予算措置が終わり具体的な事業計画の立案に入っていることと思います。2月と3月で新年度体制を準備して4月1日から新年度スタートになるのはどの市町村でも変わりません。

具体的な事業では、評価の高い事業は継続しながらもう一步前進を目指していくと思います。新規事業は魅力的で市民の参加が多数得られるような内容を求められます。担当者のみなさんの奮闘を願っています。どうぞ頑張ってください。

県公連では

さて、県公連の方は2月22日の理事会・評議員会で新年度の事業方針と事業が決定します。その詳細は4月号に掲載する予定ですが、ここでは新年度の最重要事業の

- 1 県大会
- 2 関プロ新潟大会

について展望を述べます。

1 県大会

平成24年度の第63回県公民館大会は糸魚川市で開催されます。

期日 平成24年7月20日(金)
会場 糸魚川市青海総合文化会館



佐渡市から糸魚川市に大会旗の引継ぎ

ならない時期にきています。最大の懸案は、参加人員です。昨年は佐渡という交通の特殊性があり、参加者が250名程度でしたが、例年450名程度の参加者があります。

是非とも多数の参加がありますよう、各市町村で取り組みをお願いします。

2 関プロ新潟大会

平成24年度は、第54回関東甲信越静公民館研究大会(関プロ)新潟大会の開催前年になります。

県大会の開催と共に、新年度の最重要として取り組む必要があります。

第54回関東甲信越静公民館大会新潟大会
開催期日
平成25年8月29日(木)～30日(金)

会場
全体会場
南魚沼市民会館
分科会、宿泊地
南魚沼市、湯沢町

主管
中越地区公民館連絡協議会・南魚沼市、湯沢町

主管の糸魚川市では開催に向けて準備を進めています。前回開催の佐渡市のように地元の人で実行委員会を組織して準備に当たるのではないかと思います。開催テーマ、講演講師、事例発表などの決定と大会運営組織の編成など早急に取り組まなければ

すでに、平成22年度には開催準備委員会を組織し開催期日や主会場などを決定しました。平成23年度は計4回にわたる実行委員会を開催し、講師の選定、運営委員会の編成等を協議して準備を進めてきました。



南魚沼市で開催された代表実行委員会

正式に決定します。開催準備に向けた中で、大きな仕事は大会紀要(冊子)の作成(長岡市担当)と大会運営本部・総務の準備(南魚沼市、湯沢町担当)です。他の部門(会場、受付、広報、輸送、宿泊)でも具体的な準備に入ることになります。このように平成24年度は例年の活動の他に関プロ大会の開催準備が入り例年に増して多忙な一年になりそうです。

現在の最大懸案事項

大会初日に行う予定の講師が未定です。著名な講師であれば2年くらい前に予約をすると思いますが、実行委員会候補として予定していた講師の日程調整がつかなくなつたため不調に終わりました。そのため、現在講師が白紙状態です。適任の方がいれば是非紹介をお願いします。

新潟で開催された前回の関プロは平成14年でした。(月岡温泉ホテル会場)

あの大会功に負けない大会に是非したいと思います。

視点

地域で支える子育て支援

新潟市中央地区公民館
運営審議会委員 高橋千恵子



新潟市では、「日本一子育てにやさしい都市」という重点施策を掲げ、市内の全公民館でも子育て支援事業を積極的に取り組んできた。微力ながら、私も三十年以上公民館の子育て事業に関わってきたが、その間、子育てを取り巻く環境は大きく変化した。社会経済や地域社会の変容が相互に影響し、その結果家庭の機能が崩れ、地域住民の関係が疎遠化してしまった。そして、子どもの活動の場に大切な「空間」「時間」「仲間」の三間が減少し子どもは非行に走り、親は虐待をするなど、痛ましい事件、事故が日々新聞を賑わせている。

地域は子どもの生活の場である。子どもも大人も自らの

能力を最大限発揮し自己表現できるような場が必要である。子育てには人材が必要になるが、公民館こそ人材育成の拠点ではないだろうか。利用者団体には色々な柄という人柄を持つ人がいる。学校、福祉施設、町内会等にとび出して出張サービスをを行うのも良い。また団体から離れて子育てサークルに足を運び三世交代交流としての成果を上げている公民館もある。

地域住民のニーズを把握し官民協働の基で私達は社会全体のあり方を考え、社会連帯の希薄化から脱するための方策として、それぞれができることから「みんなで子育て」の一步を踏み出したい。

H O T N E W S 掲 示 板

やっと決まりました。



かねてから移転先を探していた新事務所がようやく決まりました。

現在入居している「林業会館ビル」が閉鎖されることになり、昨年の8月から事務所の移転先を探していましたがこのたび下記のように決まりました。

移転先：新潟市西区平島1301
中野プラザ107

場所は、黒埼インターから青山に向かう国道8号線沿いで平島橋のたもとです。移転に伴い、電話番号等の変更がありますので引越（3月8日予定）後に本紙でお知らせします。

ひろげ

田上町の宝「護摩堂山」

田上町公民館運営審議会委員 吉澤 卓

我が家の玄関を開けると護摩堂山が大手を広げて待っています。諸々の生き物や自然を掌る神々が住民の安寧を祝福してくれている様に思えてなりません。

護摩堂山は、登山口から山頂までは徒歩約40分の道程で登ることができ、年間を通じて老若男女を問わず多くの方が登っています。

頂上までの道中では、桜、新緑、紅葉と四季折々の風情が堪能できます。登山道両脇の木梢では、偶にリスが通ります。

頂上は護摩堂城の本丸城跡になります。ここには赤・青・紫・白など色とりどりの約3万株の紫陽花が咲き誇る「あじさい園」があり、毎年6月にあじさい祭りが開催され、多くの人で賑わいます。このほか、護摩堂石を切り出した「石切場」

天然記念物「つなぎがや」があります。

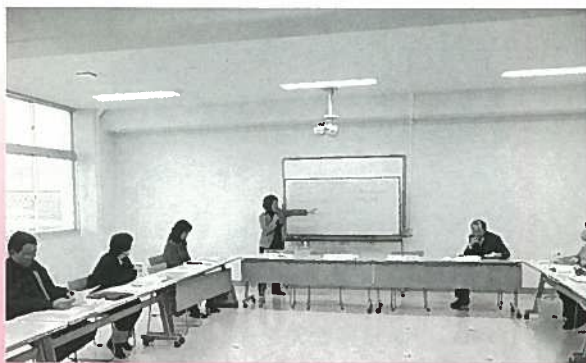
また、頂上からは蒲原平野の広大な田園風景や遠くは佐渡島を一望に見渡すことができます。冬場の晴れた日には刈羽黒姫山や米山、その向こうの妙高山や火打ヶ岳を見ることが出来ます。

ぜひ護摩堂山へお越しください。



生かすしくみを求めて

公民館運営審議会委員の現状と課題＝



委員長自らホワイトボードを活用しながら会議を進行

いていたことが想像されます。

その後、60年が経ち、平成11年に、社会教育委員・公民館運営審議会について大きな改正がありました。いわゆる「地方分権一括法」に伴う改正で、公民館運営審議会の必置が緩和され、任意設置となりました。この必置の緩和については、研究者や公民館関係者の間で意見が分かれるところです。委員の委嘱の範囲、職務、定数など細かな点は、法律の条文によりますが、会議に出席して意見を述べることにとどまらず、委員自ら地域に目を向け赴き、市民の意見を社会教育施策に反映させていくことが、これからの社会教育に必要なことだと考えます。

3 これまでの経過

当市の社会教育委員・公民館運営審議会委員数の変遷を、左表にまとめました。

公民館運営審議会が任意設置となったことで、市町村合併前のほとんどの旧町村では、公民館運営審議会の廃止や社会教育委員との兼任化が進んでいました。これは、その教育委員会の社会教育活動の大部分またはほとんど全てに、公民館が関わっていたためだと思われます。これらのことから、平成17年1月1日の当市の市町村合併時には、公民館運営審議会を新市に1つ置くこととし、編入となった町村から、社会教育委員・公民館運営審議会委員を1名ずつ選任することとしました。

その後、任期の更新を繰り返す中で、13区から推薦される両委員の兼任化が次第に進んでまいりました。市町村合併時、各区には、教育委員会分室と地区公民館が一体で設置されました。また、各区の社会教育事業も、上越市立公民館が、予算を含め全て所管することになり、各区では、「社会教育活動＝公民館活動」という状況となりました。そして、最終的に、市内全域で、両委員が全員兼任されました。

このことは、「上越市総合教育プラン」の基本計画の中に、「公民館を中心とした社会教育の推進」と位置付けたことと食い違いはないものと考えています。

4 今後の課題

県社会教育研究大会で発表するにあたり、委員で話し合った内容などから、委員活動や教育委員会担当課の今後の課題などを挙げてみたいと思います。

- 委員自身が、委員の意義や役割を、もう一度あらためて認識し直す。
- 担当課でも、委員の意義や役割をあらためて認識し直し、委員の意見を、方針や施策にできるだけ反映させる方法などを検討する。
- 具体的な個々の事業の内容などへも、委員の意見が反映されるよう、現在行っている社会教育事業の評価活動をどう充実させるか研究する。
- 全体会議だけでなく、グループに分かれて行うなど、活発に議論できる方法を探る。
- 小さな地域を範囲とする公民館の事業や運営全般にも、委員の意見を細かく反映させていくしくみを検討する。
- 委員同士でも、会議の場以外でも自主的に学び合いながら、その成果を、これらの課題の解決に繋げていく必要がある。

5 おわりに

「地域自治区」という全国でも先進的な都市内分権のしくみをもっている本市にあって、この地域自治区を範囲として公民館を設置しています。また、市民の自主自立的なまちづくり活動をすすめる自治基本条例も制定されており、個人のニーズを充足させるだけでなく、多くの市民の問題意識と知恵を、地域の課題を解決する営みに繋げていかなければなりません。社会教育は、まさにその役割を担う必要があります。市民の代表である社会教育委員・公民館運営審議会委員の皆さんとともに、社会教育施策の充実に向けて、今後も取り組んでいきたいと思ひます。

《参考文献》

- 『社会教育法解説・公民館の建設』 寺中作雄 国土社 H7.7.20
- 『改訂・社会教育法解説』 井内慶次郎ほか 財団法人社会教育連合会 H20.8.29

特集

本気で市民の声を =完全兼任化した社会教育委員と



上越市教育委員会
生涯学習推進課 課長
上野 るみ

1 はじめに

昨年10月に、村上市で開催された新潟県社会教育研究大会で、当市の社会教育委員の皆さんから『劇場版：公民館の潜在力を引き出す、社会教育委員の楽しい活動♪』をテーマに、行政と一部葛藤があったことも赤裸々に盛り込みながら事例発表をしていただきました。迫真の演技が会場の皆さんに強いインパクトを与えたのか、他市の教育長さんなどから委員の男女比率が50%であることや、委員の積極さにお褒めの言葉を頂戴しました。

発表に際し、委員自らシナリオ、演出、キャストなどをすべて企画し、委員側と生涯学習推進課や公民館の職員側とで内容について熱い議論がありました。その結果が委員と行政とを一步も二歩も近づけることができたのではないかと自負しています。互いの批判ではなく、事業や環境を良くしていこうという想いを持ち本音で語ることが、当たり前なことでありながら、できてこなかったことだと感じております。

また、委員が社会教育事業を実際に見て評価をするしくみを一昨年からはじめましたが、意見というよりアイデアを出すことを意識していただいております。今後も、建設的な意見をいただきながら、当市の社会教育が一層飛躍するよう力を入れていきたいと思っております。



県社会教育研究大会・第1分科会 朗読劇での発表 H23.10.13

2 社会教育委員・公民館運営審議会制度について

すでに多くの皆さんがご承知のことですが、報告のベースとなりますので、あらためて社会教育委員や公民館運営審議会の役割を概観してみたいと思います。

社会教育法が、昭和24年6月に公布・施行された時点で、すでに社会教育委員も公民館運営審議会委員も法律に位置づけられていました。社会教育法の立法化を担当した当時の文部省・社会教育課長の寺中作雄氏は、『社会教育法解説』という法律の解説書の中で、社会教育委員の役割を、「民間人で社会教育に優れた意見を有する人々の卓見良識を社会教育の施策の上に実現せしめようとする」とし、公民館運営審議会委員の役割は、「民間の世論が充分公民館運営に反映する」と、述べています。それまでの大きな戦争と封建的な風潮への反省から、社会教育の民主的な運営に心を砕

項 目	合 併 直 前			合 併 直 後		現 在
	社会教育委員	人数	公民館運営審議会委員 説 明	社会教育委員	公民館運営審議会委員	社会教育委員 公民館運営審議会委員
合併前上越市（上越市）	12	15		12	7	7
安塚区（安塚町）	8	(8)	社会教育委員と兼任	1	1	1
浦川原区（浦川原村）	7	(7)	社会教育委員と兼任	1	1	1
大島区（大島村）	7	(7)	社会教育委員と兼任	1	1	1
牧区（牧村）	7	7		1	1	1
柿崎区（柿崎町）	8	0	設置なし	1	1	1
大潟区（大潟町）	10	(10)	社会教育委員と兼任	1	1	1
頸城区（頸城村）	5	15		1	1	1
吉川区（吉川町）	6	0	H12年度に廃止	1	1	1
中郷区（中郷村）	5	5 (10)	うち5人は社会教育委員と兼任	1	1	1
板倉区（板倉町）	12	(12)	社会教育委員と兼任	1	1	1
清里区（清里村）	6	0	設置なし	1	1	1
三和区（三和村）	5	0	設置なし	1	1	1
名立区（名立町）	5	0	H12年度から廃止	1	1	1
合 計	103	42 (91)		25	20	20

市町村合併に伴う社会教育委員・公民館運営審議会委員数の変遷

実践記録

167

シリーズ

南魚沼市家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」～誰もができる支援の輪～

南魚沼市教育委員会 子ども・若者育成支援センター 社会教育指導員 木村 義隆

◆学校のなかに誰でも気軽に立ち寄れる部屋をつくりました

平成20年6月に南魚沼市家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」は、文部科学省の家庭教育支援委託事業として、六日町小学校内の空き教室を拠点にして活動を開始しました。平成22年には新たに市内3小学校に設置し、現在4校で活動しています。

◆だんぼの部屋の特徴

立ち上げ当初は補助金に100%依存していましたが、一時期補助金が無くなり、さて、これから「だんぼの部屋」をどうして行こうか悩んでいる時に、チーム員から『私たち、お金がなくても活動を続けたいんです。だって本当に良い活動ですから。』と言われ、それだったらお金がなくても出来ることを皆で考えることにしました。“お金がなくても出来るよね！資格がなくても出来るよね！誰もができる支援の輪！”まさに、依存から自立へのスタートとなりました。



「だんぼの部屋」を訪れる、いわゆる非支援者が支援者に変わっていったり（循環型・大人の居場所）、チーム員同士で支え合ったり、お互いの気持ちを大事にする関係が、活動が続いているエンパワーメントだと思います。

また、チーム員の家族の子どもたちが中学校の部活仲間や高校の友達を誘って、もの作り教室・料理教室の講師や絵本の読み聞かせをしてくれることも一つの特徴です。子どもたちにとっては、私たち大人よりもお兄さんお姉さんの存在の方がよっぽど大きいようです。

チーム員は肩書きのある人もいますが、だんぼの部屋ではおせっかいなおばちゃん・子育て先輩、カッコ良いお兄さんやお姉さんとして楽しみながら活動を続けています。専門家がないことで活動内容に限界があるかもしれませんが、逆に支援の輪を広げるためには“敷居を低く・間口は広く”することが大切です。

チーム員は肩書きのある人もいますが、だんぼの部屋ではおせっかいなおばちゃん・子育て先輩、カッコ良いお兄さんやお姉さんとして楽しみながら活動を続けています。専門家がないことで活動内容に限界があるかもしれませんが、逆に支援の輪を広げるためには“敷居を低く・間口は広く”することが大切です。

◆だんぼの部屋の取り組み

○しゃべり場サロン「だんぼの部屋」

子どもから保護者、先生、地域の人、誰もが気軽に立ち寄れる場所です。また、学校の玄関には「だんぼの部屋」専用チャイムを設け、保護者が訪れやすい環境作りも行っています。笑顔で帰ってもらえるのが一番の喜びですが、部屋を訪れる保護者との関わりだけでなく、子どもたちを通して家庭へのアウトリーチへ繋がるなど訪れる人のおしゃべりやつぶやきの中から活動するための沢山のヒントをいただいています。

○だんぼ学習会

活動しているチーム員の勉強の場です。誰もができる支援の輪をキャッチフレーズにしていますが、活動を続けるにあたって自分たちの熱意や思い込みだけではきちんとした対応ができないことを実感しました。そこで、問題を抱える子どもたちや孤立しがちな家族への対応などをテーマに学んでい

ます。

○親子もの作り教室、親子で料理教室

親子で一緒に参加するのが原則です。もの作りや料理を親子で一緒にやることで家族の会話が弾んだり、学校の和室や調理室を活用することで、普段学校から遠ざかっている保護者と学校とのパイプ役となるような取り組みを行っています。子どもも保護者も学校から遠ざけないことが大切です。また、中高生スタッフがお手伝いに加わるなど、人との関わりを持てる場であることを大切にしています。

○入学前保護者交流会 ～はじめましてこんにちは～

初めての学校生活、まずは大人同士が仲良く。入学前保護者学習会や半日入学の際に、保護者同士の顔合わせ「はじめましてこんにちは」から始まり、みんなでリングの皮むきゲーム、人間知恵の輪、校長先生や教頭先生からの感動の読み聞かせなど、保護者の不安を取り除くために保護者同士そして学校との関係作りのお手伝いも行っています。

○メッセージカードの配布

がんばっている子どもたちに大人からのラブレター。新一年生親子がコミュニケーションを深めることを目的に、親から子どもへ送るメッセージの配布運動をおこなっています。

○図書ボランティア養成講座

家庭教育支援チーム単独での活動には限界があり、サポートしてくれる存在が不可欠です。そこで学校支援ボランティアに関心のある方を対象に、図書ボランティアの養成に力を入れています。絵本の読み聞かせの練習は勿論、本の修繕、リサイクルバッグづくりなど必要なスキルを学びます。他にも、昼休みには図書室のお留守番や整理整頓などやることはまだまだ一杯あります。

○だんぼ通信(月1回発行)

啓発活動の一環として、4小学校の全保護者の他にも、地域の小中学校・幼稚園・保育園に一部配布しています。だんぼ通信は活動紹介にとどまらず、子どもたちへのメッセージからお父さんのつぶやきコーナーまであります。また、自前の「だんぼの部屋」リーフレットや文科省発行のブックレット(「だんぼの部屋」掲載)も必要に応じて配布しています。

◆成果

みんなが安心してつぶやける場所ができ、みんなの力を発揮する場所ができ、親子で共同作業する楽しさを知り、チーム員は役に立つ自分を発見できました。それと、学校内に「だんぼの部屋」があることから、先生が活動を目の当たりにし学校との信頼関係が築かれたことで相乗効果が生まれています。

行政も「地域人材を活用する場」と考えるのではなく「地域人材が活動する場」とすることで、地域人材に主体性を持たせ、地域人材自らが教育力を高め、最も効率的な活動が展開できるという発想の転換が必要と考えます。



ほろほろとたくまづく

関川俳句の会

生涯学習の一環として、早くから活動を始め、当初は会員数も十数名と多く賑やかでありました。しかし、現在は高校を退職後の渡辺龍先生の指導のもとに女性四名男性一名の五名の最後期高齢者で組織され、毎月半月ば公民館を会場として活動しています。

会員から提出の句を互審し、先生から添削、指導をしていただいで、村発行の「広報せきかわ」に寄稿し文化面を賑わしております。

毎月一回の集まりですが、



途中で脱線、世間話やら旅行の話で和気藹藹と終わっている次第です。

悩みは若い方がいない事です、思うようにいかないのが実態となっています。

関川村・関川俳句の会
青木 慶一 記



「皆で楽しい」

パソコン教室「はやぶさ」

パソコン教室「はやぶさ」

私たちは、平成21年公民館明石学級募集の「パソコン教室入門」コースに入会しました。1年目は無事進級し2年目「パソコン教室初級」も無事卒業し、明石学級はここで終了しましたが、この後もう

1年習いたいの意見が出て、パソコン教室「はやぶさ」を作り全員で参加しました。

月2回の集まりで、講師の先生の指導の元、生徒15名和気あいあい楽しく勉強しています。

年賀状やポスター等をつくり、またカレンダーを作り公民館まつりに参加するなど楽しみもあります。

また文章では、町内の案内文や会計の表など実務的な物もたくさん習い、今では手書きなど出来なくなりました。

パソコンは奥が深く、生徒の年齢も高くだんだん覚えが悪くなり、若い人には笑われそうですが皆一生懸命です、講師の先生も大変だと思いますがもう1年お願いしようかと思っています。パソコン教室で皆と会えるのも楽しみです。



十日町市・パソコン教室「はやぶさ」
小坂 幸平 記

中野君は、職場で一番の若手職員として、公民館事業から、市民会館の施設管理全般まで担当しています。ちなみに、当市は公民館職員と市民会館職員が兼務となります。

中野君は、わくわくルーム（幼児遊戯室）や、子育てサークルの担当もしていて、仕事柄、若いお母さんのお友達が多数。そんな彼を、職場の男性陣は羨望のまなざしで見つめつつ「ママギャルキラー中野」とよんでいます。（そう

小千谷市生涯学習スポーツ課公民館係

主査 中野 良彦さん



いえば外国語教室の担当もしていて、受講生には特別人気があるような？ないような？…)

九州出身というわりには酒を一滴も飲まず温厚な中野君、今後はさらなる飛躍を求め食欲に泥臭く、まさに今流行りの「ドジョウ」のような活力を持って仕事に励んでください。

(小千谷市生涯学習スポーツ課公民館係 佐瀬久志 記)

水原公民館に勤務する田村さんを紹介します。こちらは市内4館の中で最も利用者が多いので、何かと苦勞もあるのではと思いましたが、心配は無用でした。

人当たりが柔らかいので、特に年配女性からのウケがいいと評判です。

月一回の「子育て親子カフェ花どけい」では、参加者の未就園児親子とボランティアさんとのパイプ役として活躍。また、「女性として

阿賀野市水原公民館

主任 田村 靖宏さん



のじぶん磨き講座」など、女性に嬉しい教室を企画するのを得意としています。

地域でのさまざまな課題も、持ち前の明るさと柔軟性で乗り越えてくれるものと期待しています。

(阿賀野市生涯学習課社会教育係

主任 相馬まり子 記)

素顔拝見



このたび「北海道公民館60年史」が北海道公民館協会から発行されて当会に寄贈されました。3部に分けて編集されていて、第1部「北海道公民館協会のあゆみ」第2部「北海道公民館史」第3部「資料編」で139ページです。

第1部では昭和27年に結成された「北海道公民館連絡協議会」から現在の組織に至るまでを「あゆみ」として掲載しています。また、道内12支部の現況も述べています。第2部は1部で述べた「あゆみ」を各市町村の現状とあわせて詳しく述べています。第3部は資料編で歴代の役員名簿や優良表彰受賞名簿をまとめてあります。

3部は資料編で歴代の役員名簿や優良表彰受賞名簿をまとめてあります。

北海道公民館協会
〒060-0002
札幌市中央区北2条西7丁目
北海道生涯学習推進センター9F
電話・FAX 011-271-2825

県公民館連合会事務局
〒951-8053
新潟市中央区川端町2-9
電話・FAX 025-224-6073
E-mail ni-koren@juno.ocn.ne.jp

北海道公民館60年史 発行 北海道公民館協会

恵贈資料紹介

北海道では平成25年に全国公民館研究会が開催（富良野市）されます。この年は関プロ新潟大会の開催年でもあります。どちらも本年が大会開催の前年になります。その開催準備に忙しい一年になります。北海道にエールを送りたくなるような一冊です。

問い合わせ

北海道公民館協会
〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目
北海道生涯学習推進センター9F
電話・FAX 011-271-2825

県公民館連合会事務局
〒951-8053

新潟市中央区川端町2-9
電話・FAX 025-224-6073

E-mail ni-koren@juno.ocn.ne.jp

お元気ですか

熊倉 文男 (五泉市)



退職して2年が過ぎようとしている。家族の元気印は己からと、とにかく体を動かすことを心がけている。

天気の良い日は、里山の山歩きや低い山の登山、ハイク、少し遠出もする、これは、とにかく気持ちいい。空気が本当にうまい。ときには妻や孫達も誘う。しかし、あくまで気ままにやるのであって、トレーニングも山歩きも、義務を果たすかのようなやり方は長続きしないと思っている。

最近、町中を歩くことが楽しい。いつも車で通り過ぎることの多い町なかは、なかなかどうして新しい発見が沢山ある。これがまた新鮮だ。これからの楽しみの一つである。

そして、以前から好きだった陶芸にハマっている。ヘタクソだが実に楽しい。時間の過ぎるのが速く感じる。

昨年、公民館の「きなせや楽習大学」に参加した。民俗学入門「五泉の野の石仏が語るもの」講座は興味のあることだった。昔の人達の信仰や風習が感じとれる。今も続いている所があるという。これほど貴重なものが、しかも身近に存在していた。カルチャーショックを受けた。また、歩くことの楽しみが増えた。そして、新たな友達もできた。

これだと、日々忙しそうに思えるが、そうでもない。やっぱり家で静かに過ごせることの幸せを実感している。

これからも積極的に識者の話しを聞くことや、身近な講座に参加したりで、己の体験談や話しが家族にとっても新鮮なものになるように過ごしたいと思っている今日このごろである。

information

- 平成23年度 新潟県社会教育関係表彰
平成23年度 子ども読書活動優秀実践校
図書館・団体(個人) 文部科学大臣表彰
阿賀野市立図書館 らびかえほんの会(刈羽村)
- 平成23年度 優良PTA文部科学大臣表彰
新潟市立万代長嶺小学校PTA 新潟市立中ノ山小学校PTA
新潟県立国際情報高等学校PTA
- 平成23年度 視聴覚教育・情報教育功労者表彰
松井誠之助 氏
- 平成23年度 全国優良公民館表彰
阿賀町公民館 新潟市鳥屋野地区公民館

お詫びと訂正

本誌1月号に掲載した「特集」の執筆者の顔写真が誤っていました。編集部では原稿校正を厳格に行っていますが、今回、筆者との確認漏れがあり別人を掲載してしまいました。筆者並びに関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。また、読者の皆様には執筆者「高松勝雄」様の写真を差し替えてくださるようお願いいたします。



高松 勝雄 氏

地すべり被害を未然に防止するため取り組んでいます

協議会会員12市町では国土保全を念頭におき、地すべり地域の保全と自然環境の保護及び地域振興のため、農業・農村整備事業による地すべり防止対策と関連事業による農業並びに生活基盤の改善を主要施策として積極的に取り組んでいます。

新潟県農地関係地すべり防止事業推進協議会
会長(妙高市長) 入村 明(会員12市町)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館(新潟県市長会内)
TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

あ と が き

事

事務局長のつがやき
2月になり、まもなくバレンタインデー。世の中のもて男には天国。もてない男には一年で最も人生の悲哀を感じる日。たかがこんなことを決めたのだと文句の一つも言いたくない。ともあれ、今日も外は吹雪。

例年の2月は「もうすぐ春」の話が出る時なのに天気予報では連日大雪の報道です。昨年は3月に入りほかほか陽気で春が来たと思んでいたから東日本大震災の発生でした。おだやかな春を迎えられるよう神よ、仏よとお祈りしたい気分です。(田原)